

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
9:00	A101 ○今村 剛士・國本佳範(奈良農研セ) ナミハダニ黄緑型におけるエマメクテン安息香酸塩抵抗性個体群および感受性個体群の増殖能力	B101 ○本間 淳 ¹ ・松山 隆志 ¹ ・原口 大 ² (沖縄防技セ ¹ ・沖縄農研セ ²) 侵入警戒トラップによる誘殺データを用いて不妊虫放飼を適正管理する方法	C101 ○竹内 博昭・遠藤 信幸(農研機構中央農研) ダイズ圃場におけるマメシクイガ幼虫の移動盛期	D101 ○松田 健太郎・市原 実(静岡農林技研) 静岡県の露地ギクおよび周辺雑草に発生するアザミウマ類の種構成	E101 高須 啓志(九大・院農) 卵寄生蜂マルカメクロタマゴバチの寄生成功に及ぼす要因
9:15	A102 ○松浦 明 ¹ ・日高 春美 ¹ ・土田 聡 ² ・平田 晃一 ³ ・山本 敦司 ³ (宮崎総農試 ¹ ・農研機構果樹茶部門 ² ・(株)日本曹達 ³) 殺虫剤感受性の低下を示さないネオニコチノイドおよび合成ピレスロイド剤抵抗性遺伝子保有ワタアブラムシの作出	B102 ○舟山 健 ¹ ・小松 美千代 ¹ ・園田 昌司 ² ・外山 晶敏 ³ (秋田果樹試 ¹ ・宇都宮大 ² ・農研機構果樹茶部門 ³) ツウカブリダニはリンゴハダニの重要な土着天敵である	C102 ○福田 侑記 ¹ ・奥谷 恭代 ¹ ・中 秀司 ² ・三浦 一芸 ³ (鳥取農試 ¹ ・鳥大・農 ² ・西日本農研 ³) 鳥取県のダイズほ場におけるマメシクイガ被害発生要因の解明	D102 ○寺尾 美里 ¹ ・奥田 恭介 ² ・新谷 喜紀 ³ (南九州大・フィールド ¹ ・CTIアウラ ² ・南九州大・昆虫生態 ³) マメハシクイガ幼虫の餌不足時に現れる光周反応の地理的変異	E102 ○高木 正見・中平 賢吾・岩瀬 俊一郎(九大農) ヨーロッパトビチビアメバチ導入後11年間のアルファルファタコゾウムシ個体群動態
9:30	A103 鈴木 洋平 ¹ ・塩月 孝博 ² ・上樂 明也 ² ・三浦 健一 ¹ ・水口 智江可 ¹ (名古屋大院・生命農 ¹ ・農研機構 ²) ペンゾイルフェニルウレア系キチン合成阻害剤に対するミカンキイロアザミウマの薬剤感受性	B103 ○中井 善太 ¹ ・武田 藍 ¹ ・金子 洋平 ¹ ・福田 寛 ¹ ・大井田 寛 ¹ ・園田 昌司 ² ・大谷 徹 ³ (千葉県農林総研セ ¹ ・宇都宮大農 ² ・千葉県庁 ³) ニホンナンシにおける天敵維持資材「バンカーシート [®] 」を用いたハダニ類防除効果の検討	C103 ○奥谷 恭代・福田 侑記(鳥取農試) 鳥取県におけるジアミド系殺虫剤のマメシクイガに対する散布適期	D103 ○松井 悠樹 ¹ ・山岸 瑞樹 ² ・土井 美春 ³ ・中 秀司 ² (鳥取大・院農 ¹ ・鳥取大・農 ² ・長野県軽井沢町 ³) 日本産ヒゲナガガ科数種に関する生態的知見	E103 ○伊藤 健司・手塚 俊行・小原 慎司(株式会社アグリ総研) ナケルクロアブラバチとコレマンアブラバチ混合マミー製剤によるイチゴおよびピーマンでの防除効果
9:45	A104 ○上樂 明也 ¹ ・桑崎 誠剛 ¹ ・飯田 博之 ² ・武田 光能 ² ・太田 泉 ² ・草野 尚雄 ³ ・高木 素紀 ³ ・柴尾 学 ⁴ ・城塚 可奈子 ⁴ ・武澤 友二 ⁵ ・岩崎 暁生 ⁵ (農研機構・生物機能部門 ¹ ・農研機構・野菜花き部門 ² ・茨城農総セ園研 ³ ・大阪環農水研 ⁴ ・道総研 ⁵) ネギアザミウマの合成ピレスロイド剤抵抗性原因遺伝子の解析と遺伝子診断技術の開発	B104 ○澤村 信生 ¹ ・角 菜津子 ¹ ・山本 隼佑 ¹ ・森 光太郎 ² (島根農技セ ¹ ・石原産業 ²) 施設ブドウにおけるミヤコカブリダニの放飼方法について	C104 ○東浦 祥光 ¹ ・大竹 潤 ² ・小野 肇 ² (山口県農林総セ ¹ ・京大院農 ²) ミカンバエのモニタリング手法及び防除技術の確立(1)ミカン幼果由来香気成分の成虫に対する影響とトラップ調査への活用	D104 木村 勇司(青森農林総研) 北上するオオタバコガの休眠性と耐寒性の変化	E104 ○長坂 幸吉 ¹ ・日本 典秀 ¹ ・上杉 龍士 ¹ ・勾坂 晶 ^{1,2} ・光永 貴之 ¹ (農研機構 中央農研・現 農研機構生物機能利用研究部門 ²) ナケルクロアブラバチとコレマンアブラバチ混合マミー製剤によるイチゴでの2種アブラムシに対する防除効果

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F101 ○遠藤 信幸・竹内博昭(農研機構中央農研) 上信越地域のダイズカメムシ類の種構成とその被害	G101 ○小野 肇・海江田祐也(京大院・農) ショウジョウバエにおける糊タンパク質が発現する時期と条件の解析	H101 ○日室 千尋 ^{1,2,3} ・池川 雄亮 ^{1,2,3} ・本間 淳 ^{1,3} (沖縄県病害虫防技セ ¹ ・琉球産経 ² ・琉球大学 ³) イモゾウムシの雄は射精物を用いて雌の再交尾を抑制する	I101 ○石川 博司・鈴木杏子・坂 紀邦(愛知農総試) 愛知県内施設イチゴほ場のナミハダニにおける定植直前の薬剤による防除効果について ~イチゴ発生予察調査ほ場における育苗期防除実施状況から~	J101 伊藤 優希 ¹ ・奥村 裕紀子 ¹ ・藤井 毅 ² ・石川 幸男 ² ・大村 尚 ¹ (広島大・院・生物圏 ¹ ・東大・院・農 ²) モンシロチョウ雌成虫の寄主探索行動と触角嗅覚応答の交尾後の変動	9:00
F102 ○桐谷 幸生・永井潤子・山田 英一(三井化学アグロ) 「しいな」粗によるクモヘリカメムシ成虫の発生量推定法	G102 ○齊藤 惇基・小野肇(京大院・農) Ecdysone 生合成における3位の酸化還元の意義とCYP6T3の機能との関係	H102 ○塩田 裕介・櫻井健志・安藤 規泰・光野 秀文・神崎 亮平(東大・先端研) フェロモン結合タンパク質遺伝子ノックアウトカイコガの生理応答のキネティクス・フェロモン源探索行動解析	I102 ○田中 雅也 ¹ ・刑部正博 ² ・山中 正仁 ¹ ・八瀬順也 ¹ ・神頭 武嗣 ¹ ・佐藤 衛 ³ (兵庫農技総セ ¹ ・京大院農・生態情報 ² ・農研機構野菜花き研 ³) UVB照射によるカーネーションのナミハダニ密度抑制効果	J102 ○奥村 裕紀子 ¹ ・藤井 毅 ² ・石川 幸男 ² ・大村 尚 ¹ (広島大・院・生物圏 ¹ ・東大・院・農 ²) モンシロチョウ雌成虫の寄主探索における幼虫糞由来香気の関与	9:15
F103 ○外山 晶敏・岸本英成・三代 浩二・中野亮・井原 史雄(農研機構果樹茶部門) チャバネアオカメムシの繁殖地モニタリングにおける合成集合フェロモントラップの利用	G103 ○山下 大志 ¹ ・瀬筒秀樹 ² ・篠田 徹郎 ² ・大門高明 ¹ (京大院・農・昆虫生理 ¹ ・農研機構 ²) ゲノム編集カイコを用いた変態の鍵遺伝子の機能解析	H103 中野 亮 ^{1,2} (農研機構果樹茶研 ¹ ・University of Toronto ²) 体サイズとリンクするノメイガの聴覚感受性	I103 高田 愛弓 ¹ ・和氣坂成一 ² ・林 直孝 ² ・有本 裕 ³ ・鈴木 丈詞 ⁴ (農工大・農 ¹ ・OATアグリオ(株) ² ・理研 ³ ・農工大院・BASE ⁴) ナミハダニに対するサフォイル乳剤の殺卵メカニズム	J103 ○両角 勇太郎 ¹ ・大村 尚 ¹ ・渡邊 通人 ² (広島大・院・生物圏 ¹ ・富士山自然保護センター ²) ミヤマシジミ幼虫蜜腺分泌物の糖・アミノ酸組成とクロヤマアリの応答	9:30
F104 ○石本 万寿広・岩田 大介(新潟農総研・作物研) アカヒゲホソミドリカスミカメ、アサジカスミカメの発生予察用フェロモン剤の誘引力の製品間の違い	G104 ○粥川 琢巳・伊藤由果・篠田 徹郎(農研機構・生物機能) 変態抑制遺伝子Kr-h1と成虫化決定遺伝子E93のdouble knockdownでどうなるのか？	H104 吉村 愛菜 ¹ ・大庭伸也(長崎大・教育・生物) コオイムシ類2種のメスによる配偶者選択とオスの卵保護行動	I104 ○飯田 博之・河野勝行(農研機構野菜花き研) ネギ圃場周囲へのホーリーバジルの植栽によるネギハモグリバエ密度抑制の検討	J104 ○西田 律夫 ¹ ・中出彩 ² ・和田 篤志 ² ・小野 肇 ² ・高松 寛樹 ² ・中 秀司 ³ (京都市 ¹ ・京大院農 ² ・鳥取大農 ³) 毒蝶ジャコウアゲハとツマグロヒョウモンの性的二型パラドックスを解く	9:45

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
10:00	A105 ○園田 昌司 ¹ ・犬飼佳代 ² ・北林 聡 ³ ・桑崎 誠剛 ⁴ ・上樂 明也 ⁴ (宇都宮大 ¹ ・日本農業(株) ² ・長野野花試 ³ ・農研機構・生物機能部門 ⁴) 量的シーケンシングを用いたコナガ個体群のジアミド剤抵抗性に関する分子診断	B105 羽田 厚(岩手農研セ) いつでも天敵W(ダブル):最強のカブリダニは土着か、それとも放飼か!	C105 ○金崎 秀司・崎山 進二・小川 遼(愛媛県果樹研セ) ミカンバエのモニタリング手法及び防除技術の確立(2)成虫期1回の薬剤散布による被害抑制効果	D105 ○伊藤 桂 ¹ ・蔡 永海 ² (高知大 ¹ ・愛媛連大 ²) 常緑性のササに寄生するハダニの低温耐性	E105 ○光永 貴之・日本典秀・上杉 龍士・守屋 成一・長坂 幸吉(農研機構中央農研) バンカー植物上での害虫アブラムシ類の増殖率と寄主植物選択性について
10:15	A106 ○北林 聡 ¹ ・桑澤 久仁厚 ¹ ・野口 忠久 ¹ ・山戸潤 ² ・山田 和義 ¹ (長野野花試 ¹ ・長野野花試佐久支 ²) キャベツ苗灌注処理剤のコナガに対する効果	B106 ○角 菜津子 ¹ ・澤村 信生 ¹ ・山本 隼佑 ¹ ・岸本 英成 ² (島根農技セ ¹ ・農研機構果樹茶部門 ²) ブドウ栽培における天敵製剤ミヤコカブリダニと土着カブリダニ類への慣行薬剤の影響	C106 ○千秋 祐也・櫻井 民人・久保田 健嗣・宇杉 富雄・津田 新哉(中央農研) ウメ輪紋ウイルス媒介アブラムシの保虫率と媒介率の種間及び個体群間差	D106 ○泉 洋平 ¹ ・福壽 康人 ¹ ・亀崎 宏樹 ² ・上村 慎一郎 ² (島根大 ¹ ・生資 ¹ ・ライオン株式会社 ²) モリチャバネゴキブリの越冬態の推定	E106 ○西森 紗月・小坂 彩・矢野 栄二(近畿大・農) バンカー植物由来の揮発性物質に対するタバコカスミカメの反応行動
10:30	A107 ○須藤 正彬 ¹ ・高橋 大輔 ² ・山村 光司 ¹ ・山中 武彦 ¹ (農業環境変動研究セ ¹ ・ウメオ大学 ²) 薬剤抵抗性管理のための濃度-死亡率反応曲線明示型モデル	B107 ○吉村 忠浩 ¹ ・香川 理威 ¹ ・森 光太郎 ^{1,2} ・中川 博 ¹ ・今井 修 ¹ ・中島 哲男 ² ・外山 晶敏 ³ ・岸本 英成 ³ (石原産業(株) ¹ ・石原バイオサイエンス(株) ² ・農研機構果樹茶部門 ³) スワルスキーカブリダニ雌成虫の室内薬剤影響試験評価	C107 ○磯輪 亮太・武田 千秋・三谷 滋・森田 雅之・吉田 潔充(石原産業(株)) 新規殺虫剤シクラニプロールに関する研究(第4報)-芝分野における防除効果と特性-	D107 檜垣 守男(農研機構・果樹茶部門・興津) モチョッキリ幼虫の休眠発育にみられる2つの過程	E107 ○三浦 早貴・今村 礼美・西森 紗月・矢野 栄二(近畿大・農) パーベナ、スカエボラ、スイートアリッサム、クレオメをバンカー植物上でのタバコカスミカメの増殖能力
10:45	A108 ○真田 幸代・藤井 智久・松村 正哉(九州沖縄農研) 九州地域におけるイネウンカ類のピメトロジンに対する感受性の動向	B108 ○岸本 英成 ¹ ・高部 真典 ² ・伊藤 慎一 ³ ・澤村 信生 ⁴ ・角 菜津子 ⁴ ・山本 隼佑 ¹ ・外山 晶敏 ¹ (農研機構果樹茶部門 ¹ ・山形園試 ² ・山形防除所 ³ ・島根農技セ ⁴) カブリダニ類の効率的野外調査法確立に向けたファイトトラップの改良	C108 ○加嶋 崇之 ¹ ・高野 梓 ¹ ・上宮 健吉 ¹ ・三谷 滋 ¹ ・吉田 潔充 ¹ ・松浦 昌平 ² ・北村 登史雄 ³ ・大西 純 ³ ・安部 洋 ⁴ ・有本 裕 ⁴ (石原産業(株) ¹ ・広島県 ² ・農研機構 ³ ・理研 ⁴) 新規コナジラミ成虫行動制御剤ベミデタッチ [®] 乳剤(アセチル化グリセリド)のトマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)の媒介抑制効果	D108 日下部 良康(横浜市) 外来種クビアカツヤカミキリの人工飼育	E108 ○荻野 拓海 ^{1,2} ・上原 拓也 ² ・山口 照美 ² ・市橋 隆壽 ³ ・鈴木 孝洋 ³ ・戒能 洋一 ¹ ・霜田 政美 ² (筑波大生命環境 ¹ ・農研機構生物機能 ² ・シグレイ ³) 紫色光の可能性~タバコカスミカメの誘引法~

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F105 ○高橋 明彦・田淵 研(農研機構東北) 2種併用トラップにおけるカスミカメ用合成性フェロモン剤の誘引性の比較	G105 ○乾 智洋・大門 高明(京大院農・昆虫生理) 若齢幼虫が蛹変態できないのはなぜか?実験形態学からのアプローチ	H105 ○岡田 泰和・藤岡 春菜(東大・広域システム) 栄養生理からみたアリのコロニー統合	I105 岡本 崇(和歌山農試) 防虫ネットによるワタアブラムシ侵入阻止効果の検討	J105 ○田端 純 ¹ ・久保田 栄 ² (農研機構 ¹ ・狭山市 ²) アヤマキバガの性フェロモン	10:00
F106 ○貴志 学 ¹ ・弘岡 拓人 ² (和歌山県試うめ研 ¹ ・和歌山県試かきも研 ²) 和歌山県におけるツヤアオカメムシの化性	G106 ○小滝 豊美 ¹ ・後藤 慎介 ² ・松本 圭司 ² ・品田 哲郎 ² ・志賀 向子 ² ・門司 麻衣子 ³ ・沼田 英治 ³ (農研機構 ¹ ・大阪市大・院理 ² ・京大・院理 ³) カメムシ類の幼若ホルモン:クサギカメムシおよびタガメの場合	H106 ○渡 康彦 ¹ ・宮崎 洋祐 ² ・後藤 慎介 ² ・田中 一裕 ³ (芦屋大・臨床教育 ¹ ・大阪市大・院理 ² ・宮城学院女大・一般教 ³) キイロシヨウジョウバエの羽化時計—前日の高温と低温の効果	I106 ○神野 壮大 ¹ ・秋野 順治 ¹ ・藏本 博史 ¹ ・藏本 厚一 ² ・柳川 綾 ³ (京工織大 ¹ ・日本リモナイト ² ・京大 ³) 阿蘇リモナイトのシロアリ進行阻害効果	J106 ○藤井 毅 ^{1,2} ・稲葉 寛 ² ・山本 雅信 ² ・横山 岳 ¹ ・伊藤 克彦 ¹ ・石川 幸男 ² (東京農工大院・農 ¹ ・東大院・農 ²) ガ類炭化水素型性フェロモン生合成器官の探索	10:15
F107 ○奈良井 祐隆 ¹ ・澤村 信生 ¹ ・田端 純 ² (島根農技セ ¹ ・農研機構 ²) マツモトコナカイガラムシ(<i>Crisicoccus matsumotoi</i>)の性フェロモントラップに使用するフェロモン量について	G107 ○山本 学・大門 高明(京大院農・昆虫生理) ホメオティック遺伝子によるカイコにおける脱皮回数制御機構	H107 田中 誠二(農食機構・昆虫領域) トノサマバッタの胚は交信して孵化を同期化させる?	I107 ○高梨 琢磨 ¹ ・福井 修二 ² ・舟木 宏 ² ・松井 康浩 ³ ・小池 卓二 ⁴ (森林総研 ¹ ・島根県中山間地域研セ ² ・湘南メタルテック ³ ・電通大 ⁴) ハラアコブカミキリに対する振動を用いた行動制御による防除の試み	J107 ○稲葉 寛 ¹ ・藤井 毅 ^{2,1} ・戎 燧 ¹ ・山本 雅信 ¹ ・石川 幸男 ¹ (東大院・農 ¹ ・東京農工大院・農 ²) ガ類フェロモン関連炭化水素の組織分布	10:30
F108 ○横田 啓・福田 拓斗(岩手県北農研) 春まきタマネギにおける殺虫剤の散布頻度がネギアザミウマの発生とタマネギ収量・腐敗に及ぼす影響	G108 ○木内 隆史・勝間 進・嶋田 透(東大農) カイコにおけるショ糖分解酵素遺伝子ノックアウトによるクワ食性への影響	H108 ○原田 哲夫 ¹ ・白木 隆士 ¹ ・古木 隆寛 ¹ ・中城 満 ² ・片桐 千保 ³ ・コスチャル ウラジミル ⁴ (高知大・院・環境生理 ¹ ・高知大・院・理科教育 ² ・東京電機大 ³ ・チェコ科学アカデミー ⁴) 11航海中に行われた、外洋棲ウミアメンボの高温耐性実験と過冷却点測定の結果分析	I108 ○小堀 陽一 ¹ ・嶽崎 研 ² ・大澤 剛士 ³ ・山口 卓宏 ² ・田之頭 拓 ² ・内藤 尚之 ⁴ (国際農研 ¹ ・鹿児島農総セ ² ・農環研 ³ ・信越化学 ⁴) 地形が交信かく乱法の効果に及ぼす影響	J108 ○上原 拓也 ¹ ・前田 太郎 ¹ ・霜田 政美 ¹ ・辻井 直 ² ・安居 拓恵 ² (農研機構生物機能 ¹ ・農研機構 中央農研 ²) ナミヒメハナカメムシのメス虫体に含まれるフェロモン様物質の同定	10:45

3月28日(火)午前一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
11:00	A109 中川 浩二(山口農林総七) 2016年の山口県におけるセジロウカカ多発生とウンカ類の薬剤感受性	B109 金子 修治・城塚可奈子・柴尾 学(大阪環農水研) 大阪府の露地ナス圃場周辺の雑草におけるカブリダニ類の種構成と季節消長	C109 上宮 健吉 ¹ ・加嶋崇之 ¹ ・吉田 潔充 ¹ ・有本裕 ² (石原産業 ¹ ・理研 ²) アセチル化グリセリドのトマトハモグリバエに対する交尾阻害効果	D109 湯川 淳一 ¹ ・吉村弘之 ² ・松尾 和典 ³ ・キムワンギユウ ⁴ (九州大学 ¹ ・三田市 ² ・九大院比文 ³ ・高麗大学校 ⁴) 外来植物を寄主とする外来タマバエ、過去の記録と新発見種の同定、生態	E109 日本 典秀 ¹ ・長坂幸吉 ¹ ・小原 慎司 ² ・手塚俊行 ² (農研機構中央農研 ¹ ・(株)アグリ総研 ²) タバコカスミカメの生物農薬の利用による微小害虫防除について
11:15	A110 秋月 岳 ¹ ・中村 有希 ² ・真田 幸代 ³ ・松村 正哉 ³ ・桑崎 誠剛 ³ ・横井 翔 ¹ ・上樂 明也 ¹ ・山本 公子 ¹ ・篠田 徹郎 ¹ (農研機構・生物機能部門 ¹ ・農研機構・果樹茶部門 ² ・農研機構・九沖農研 ³) セジロウカ・ヒメトビウカのカブリダニ抵抗性におけるGABA受容体A2' N変異の検出法の改良と抵抗性とA2' N変異の相関の解析	B110 土田 祐大・増井伸一(静岡農林研果研七) 2種広食性カブリダニによるミカンサビダニ密度抑制効果	C110 北村 登史雄 ¹ ・水谷 信夫 ¹ ・山崎 修一 ² ・山下 大輔 ³ ・加嶋 崇之 ⁴ ・松浦 昌平 ⁵ ・大西 純 ⁶ ・安部洋 ⁷ (農研機構九州沖縄農研 ¹ ・大分県庁 ² ・大分豊肥振興局 ³ ・石原産業 ⁴ ・広島総研農技セ ⁵ ・農研機構野菜花き研 ⁶ ・理研 ⁷) アセチル化グリセリドによるトマトのオンシツコナジラムに対する防除効果	D110 岩泉 連(横浜植物防疫所) クロバネキノコバエ科 <i>Bradysia</i> sp.の飼育調査	E110 久保田 千晶・片山啓介・○上船 雅義(名城大農) タイリクヒメハナカメシのおこぼれ採餌と共食いリスク

3月28日(火)午後一般講演

15:15	A111 藤井 智久・真田幸代・松村 正哉(九州沖縄農研) トビウカカ多発生に伴う生活史形質への負の影響	B111 下田 武志 ¹ ・日本典秀 ¹ ・香川 理威 ² ・森光太郎 ² ・平岡 正 ³ (農研機構・中央農研 ¹ ・石原産業(株) ² ・大協技研工業(株) ³) バンカーシート [®] の天敵放出性に及ぼす湿度の影響について	C111 水谷 信夫 ¹ ・北村登史雄 ¹ ・柿元 一樹 ² ・尾松直志 ² ・井上 栄明 ² ・太田泉 ³ ・浦入 千宗 ³ ・安部 順一朗 ⁴ ・大野 和朗 ⁵ (九州沖縄農研 ¹ ・鹿児島農総セ ² ・野菜花き部門 ³ ・西日本農研 ⁴ ・宮崎大農 ⁵) オクラにおける顕在化害虫の種類と発生量	D111 宇高 寛子 ¹ ・池澤広美 ² (京大・院理 ¹ ・茨城県自然博物館 ²) 外来種マダラコウラナメクジの日本での生活史と分布	E111 衛藤 友紀 ¹ ・菖蒲信一郎 ¹ ・香川 理威 ² (佐賀農業セ ¹ ・石原産業中央研 ²) 半促成長期どり栽培アスパラガスにおけるカブリダニ類を利用したハダニ類防除の可能性
15:30	A112 浅野 美和 ¹ ・内山徹 ² ・石塚 千遥 ³ ・上樂 明也 ¹ ・小澤 朗人 ² ・秋月 岳 ¹ ・中川 好秋 ³ ・篠田 徹郎 ¹ (農研機構 ¹ ・静岡県茶研センター ² ・京都大学農学研究科 ³) チャノコカクモンハマキにおけるジアシルヒドラーゼ系IGR抵抗性機構の解明	B112 香川 理威 ¹ ・今井修 ¹ ・吉田 潔充 ¹ ・中島 哲男 ² ・下田 武志 ³ ・日本典秀 ³ (石原産業(株) ¹ ・石原バイオサイエンス(株) ² ・中央農研 ³) 天敵カブリダニ保護装置バンカーシート [®] の農薬シエルト効果について	C112 太田 泉 ¹ ・浦入 千宗 ¹ ・柿元 一樹 ² ・尾松直志 ² ・井上 栄明 ² ・大野 和朗 ³ ・水谷 信夫 ⁴ ・北村 登史雄 ⁴ ・安部 順一朗 ⁵ (農研機構野菜花き研 ¹ ・鹿児島農総セ ² ・宮崎大農 ³ ・農研機構九州沖縄農研 ⁴ ・農研機構西日本農研 ⁵) 天敵温存植物がオクラにおけるワタアブラムシと寄生蜂の発生等に及ぼす影響	D112 Jung Chuleui ¹ ・Choi Moonbo ² ・Park Jung-Jun ³ ・Kim Dongwon ⁴ (ANU ¹ ・GBNU ² ・GNU ³ ・NIAS ⁴) Invasion of yellow-legged vespa hornet, <i>Vespa velutina nigrothorax</i> : Past and Future	E112 市川 耕治・伊藤涼太郎・三宅 律幸(愛知県農業総合試験場) キクを加害するアザミウマ類のスワルスキーカブリダニによる防除

3月28日(火)午前一般講演

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場
F109 ○相澤 美里 ¹ ・中井清裕 ¹ ・松本 匠哉 ¹ ・園田昌司 ² ・熊野 明美 ¹ ・渡邊丈夫 ³ (香川農試 ¹ ・宇都宮大学 ² ・JA香川 ³) アザミウマ類における簡易薬剤感受性検定手法の開発(1)検定法の概要と既存検定法との比較	G109 ○小野寺 駿・鈴木京・山崎 祥他・尾間 由佳子・麻生 久・原田 昌彦・堀 雅敏(東北大院農) 青色光の殺虫メカニズムの細胞レベルでの解析	H109 ○山崎 和久 ¹ ・中 秀司 ² (東大院・農 ¹ ・鳥取大・農 ²) 日本産ハラビロカマキリ属2種の配偶行動の比較と遺伝的な集団構造の解明	I109 ○嘉数 若子 ¹ ・新垣 則雄 ¹ ・貴島 圭介 ² ・守屋 伸生 ¹ ・永山 敦士 ³ ・内藤 尚之 ⁴ ・安居 拓恵 ⁵ ・辻井 直 ⁵ ・若村 定男 ⁶ (沖縄農研セ ¹ ・八重山振興セ ² ・沖縄病害虫防セ ³ ・信越化学工業(株) ⁴ ・中央農研 ⁵ ・京大学園大 ⁶) ケブカアカチャコガネの10倍放出製剤による交信かく乱効果	J109 ○松本 信弘・今野 浩太郎(農研機構(NARO)) シユウ酸カルシウム針状結晶と相乗的耐虫効果を示す植物因子について(2)
F110 ○中井 清裕 ¹ ・相澤 美里 ¹ ・森 充隆 ¹ ・松本 匠哉 ¹ ・熊野 明美 ¹ ・渡邊 丈夫 ² (香川農試 ¹ ・JA香川 ²) アザミウマ類における簡易薬剤感受性検定手法の開発(2)防カビと農薬の付着について	G110 ○金児 雄 ¹ ・奈良岡 瑠美 ¹ ・高木 圭子 ² ・比留間 潔 ¹ (弘前大・農学生命 ¹ ・京工繊大 ²) 体節特異的に起こるVerson's glandの細胞死の分子機構	H110 ○松村 健太郎・宮竹 貴久(岡山大院環境生命) 死にまねと雄の繁殖戦略の関係~魅力度と父性に注目して~	I110 古橋 嘉一(静岡市)レギュラトリーサイエンス(評価科学)とぶっかけ試験-不都合な薬効試験の間違い-	J110 ○林 鎬俊・有村 源一郎(東京理科大学) ミント香気成分による捕食性カメムシの誘引作用

11:00

11:15

3月28日(火)午後一般講演

F111 ○浦入 千宗 ¹ ・菅野 亘 ² ・武田 光能 ¹ ・太田 泉 ¹ (農研機構野菜花き部門 ¹ ・株式会社GRA ²) 施設栽培トマトにおける微小害虫モニタリングに必要な粘着トラップのサンプルサイズ推定	G111 ○菅原 亮平 ^{1,2} ・田中 誠二 ¹ ・上樂 明也 ¹ ・塩月 孝博 ¹ (農研機構 ¹ ・学振 ²) トノサマバッタにおけるRNAi感受性の地理的変異	H111 ○高須賀 圭三 ¹ ・前藤 薫 ¹ ・河野 暢明 ² ・荒川 和晴 ² (神戸大院・農 ¹ ・慶大・先端生命研 ²) クモヒメバチによるギンメッキゴミゲモ行動操作の発現変動解析	I111 ○岸 茂樹・五箇 公一(国立環境研) 特定外来生物ツマアカスズメバチの現状と化学的防除手法の可能性	J111 ○深谷 緑 ¹ ・桐山 哲 ¹ ・中野 昭雄 ² ・渡邊 崇人 ² ・安居 拓恵 ³ (日大生物資源 ¹ ・徳島農総技セ ² ・中央農研 ³) クビアカツヤカミキリ被害モモ園での成虫ルアートループによる誘引試験
F112 ○西村 卓真・山本 雅則・江波 義成(滋賀県病害虫防除所) 予察灯光源の比較検証-緑色LEDと白熱電球の水稲害虫等に対する誘引性	G112 ○山本 大介 ¹ ・炭谷 めぐみ ² ・笠嶋 克巳 ³ ・瀬筒 秀樹 ² ・松岡 裕之 ¹ ・加藤 大智 ¹ (自治医大・医動物学 ¹ ・農研機構・カイクウ ² ・自治医大・機能生化学 ³) ハマダラカにおけるマウスBax遺伝子を用いた細胞死誘導系:不妊化技術への応用例	H112 岩出 拓 ¹ ・福井 昌夫 ² (京大農・資源生物 ¹ ・京大院・応用生物 ²) エンマコオロギの求愛活動の時間帯と鳴き方の変化	I112 ○桐山 哲・原田 慧・岩田 隆太郎(日大・生物資源) 外来種クビアカツヤカミキリに対する微生物防除剤バイオリサ・カミキリの効力試験とこれを利用した防除法の提案	J112 ○上地 俊久・金田 昌士・佐々木 幹了(横浜植防) ケージ内のセグロモモミバエに対する2種誘引剤の産卵抑制効果:β-カロオフィレンとメチルオイゲノールの比較

15:15

15:30

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
15:45	A113 ○内山 徹・小澤 朗人(静岡茶研センター)複合抵抗性チャノコカクモンハマキにおける交差抵抗性の解析	B113 ○吉澤 仁志 ¹ ・長浜 ゆり ¹ ・谷口 高大 ¹ ・下田 武志 ² ・日本 典秀 ² ・森 光太郎 ³ ・平岡 正 ⁴ (群馬農技セ ¹ ・中央農研 ² ・石原産業(株) ³ ・大協技研工業(株) ⁴)抑制栽培キュウリにおける天敵維持装置「バンカーシート [®] 」の効果的利用法の検討	C113 副島 康義(長崎農技セ果樹)ウンシュウミカン園におけるインセクタープラント利用の試み	D113 ○竹田 真木生 ^{1,2} ・楊帆 ¹ ・向井 歩 ² (神戸大学農学研究科 ¹ ・神戸大・農院 ²)アメリカシロヒトリの同所的種分化におけるperiod遺伝子の役割	E113 ○大槻 初音・矢野 修一(京大院・農・生態情報)ハダニへのステルス性をカブリダニ種間で比べてみた
16:00	A114 上室 剛(鹿児島農総セ茶業部)鹿児島県におけるチャハマキのジアミド系薬剤に対する抵抗性個体群の出現	B114 ○柳田 裕紹 ¹ ・桐明 紗織 ¹ ・下田 武志 ² ・日本 典秀 ² ・森 光太郎 ³ ・中島 哲男 ⁴ ・平岡 正 ⁵ (福岡農林試 ¹ ・中央農研 ² ・石原産業(株)中央研 ³ ・石原バイオサイエンス ⁴ ・大協技研工業 ⁵)イチゴ育苗期におけるバンカーシート [®] を利用したナミハダニ防除効果の検証	C114 ○崎山 進二・金崎 秀司・小川 遠(愛媛農水研果樹研セ)かんきつ園の草刈タイミングがミカンハダニと土着天敵の発生に与える影響	D114 田中 さおり ¹ ・門野 敬子 ² ・小林 徹也 ² ・富田 秀一郎 ² ・藤井 告 ³ ・伴野 豊 ³ ・○小林 淳 ¹ (山口大院・創成科学 ¹ ・農研機構 ² ・九州大・農 ³)クワコとカイコの雑種およびコンソミック系統の表現型解析	E114 ○世古 智一・安部 順一郎・三浦 一芸(農研機構西日本農研)ブラインシュリンプ耐久卵が飛ばないナミテントウの繁殖に及ぼす効果
16:15	A115 ○糸川 健太郎 ^{1,2} ・駒形 修 ¹ ・葛西 真治 ¹ ・富田 隆史 ¹ (国立感染症研究所・昆虫医学部・国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) ²)チカイエカにおけるピリプロキシフェン抵抗性の分子機構	B115 ○西川 洋史 ¹ ・五十嵐 清晃 ¹ ・香川 理威 ² (JA全農営技セ ¹ ・石原産業 ²)「バンカーシート [®] 」を利用したミヤコプリダニによるいちごのハダニ類防除	C115 大江 高穂(宮城古川農試)フタスジヒメハムシ寄生蜂2種の寄生行動について	D115 ○金城 聖良 ¹ ・豊里 哲也 ² ・本間 淳 ^{1,3} ・立田 晴記 ³ ・鶴井 香織 ⁴ ・新里 尚也 ⁵ ・青山 洋昭 ⁴ ・沢田 裕一 ⁶ (沖縄防セ ¹ ・琉球産経 ² ・琉大農 ³ ・琉大戦略セ ⁴ ・琉大熱生研 ⁵ ・滋賀県大 ⁶)ミカンコムバエ血縁解析用マイクロサテライト(SSR)マーカーの探索	E115 広瀬 義躬(九大)生物的防除における多食性天敵の生息場所特異性の重要性
16:30	A116 ○井上 広光・新井 朋徳(農研機構・果茶研)ライトトラップにはご用心～フタモンマダラメイガの飼育で生じた問題	B116 ○松比良 邦彦 ¹ ・柿元 一樹 ¹ ・尾松 直志 ¹ ・下田 武志 ² ・日本 典秀 ² ・森 光太郎 ³ ・中島 哲男 ⁴ ・平岡 正 ⁵ (鹿児島農総C ¹ ・農研機構・中央農研 ² ・石原産業 ³ ・石原バイオサイエンス ⁴ ・大協技研 ⁵)天敵増殖資材「バンカーシート [®] 」利用を基幹としたサイインゲンの害虫防除体系	C116 ○柳沼 勝彦・岸本 英成(農研機構果樹茶部門)異なる防除体系のリンゴ園における害虫発生について	D116 ○野崎 友成・松浦 健二(京大院・農・昆虫生態)シロアリ女王の脂肪体における核内倍化	E116 ○清水 優子・安田 慶次・喜友名 朝次(沖縄県森林資源研究センター)マツノマダラカミキリの外部寄生天敵クロサワオオホソカタムシ幼虫の移動特性

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F113 ○加進 文二・横堀 亜弥(宮城古川農試) LED光源を利用した予察灯の水稲害虫に対する誘引性	G113 ○松村 崇志・早川 洋一(佐賀大学) アワヨトウにおけるストレス順応性獲得の分子機構	H113 ○側垣 共生 ¹ ・工藤 慎一 ² ・野間口 眞太郎 ¹ (佐賀大院農 ¹ ・鳴門教育大学院学校教育 ²) 寄主植物の違いに応じて変異するミツボシツチカメムシの繁殖形質	I113 ○五十嵐 清晃 ¹ ・柳澤 大介 ² (JA全農営技セ ¹ ・テュホン・プロダクション・アグリサイエンス(株) ²) 新規ウンカ剤ピラキサルトに関する研究:各種ウンカ類への殺虫活性と水稲育苗箱施用剤としての効果	J113 ○金田 昌士・上地 俊久・佐々木 幹(横浜植防) セグロモモバエ雄の性成熟指標としての射精甲の発達	15:45
F114 ○柴 卓也・奥田 充・平江 雅宏(中央農研) 日本国内のイネ縞葉枯病多発地域に共通する要因	G114 ○野島 陽水・横山 岳・天竺桂 弘子(農工大院・農) カイコガの脱皮・変態期における細胞内ROS蓄積メカニズムの解明	H114 ○Chae Younghae ¹ ・伊藤 桂 ² ・福田 達哉 ² ・荒川 良 ² (愛媛連大 ¹ ・高知大 ²) 2種のスゴモリハダニにおける異種雄間の闘争がメスの繁殖に与える影響	I114 磯野 昌弘(森林総研・東北) オス偏重性比への誘導によるトネリコクロハバチ防除の試み	J114 ○久保 良平 ¹ ・益子 大二郎 ² ・宇賀神 篤 ^{3,4} ・小野 正人 ^{1,3} ・山崎 旬 ² (玉川大・ミツバチ科学 ¹ ・玉川大・農・植物機能 ² ・玉川大・院・農・昆虫機能 ³ ・学振PD ⁴) オオバトソウ(ラン科ツレサギソウ属)の花香放出パターン解析とポリネーター誘引物質の特定	16:00
F115 ○柳澤 由加里・八瀬 順也(兵庫農技総セ) ヒメトビウンカ第1世代虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒率早期予測の試み	G115 朝野 維起(首都大・院理工・生命) 脱皮にともなうラッカーゼ活性化のメカニズム	H115 ○洲崎 雄 ¹ ・小寺 聡子 ² ・藤原 晴日 ² ・佐々木 力也 ³ ・岡田 賢祐 ⁴ ・香月 雅子 ⁵ (大阪市大・院・理 ¹ ・岡山大・農 ² ・富士フーズ ³ ・岡山大・院・環境生命 ⁴ ・東京大・院・総合文化 ⁵) 気温の変動がタマコシバンムシの交尾前後の性選択形質に与える影響	I115 ○齊藤 美樹 ¹ ・馬着 治子 ² ・斯波 肇 ³ ・岩崎 暁生 ¹ (道総研中央農試 ¹ ・北海道後志農改 ² ・道総研農研本部 ³) トマトの新発生害虫ウロコタマバエの一種 <i>Lasioptera</i> sp.の幼虫に対する薬剤防除効果	J115 ○与謝野 舜・赤津 美波・齋田 康彦・増田 秀平・嘉数 怜・増岡 直史・松田 一寛・堀 雅敏(東北大学農学研究科) コウチュウ目ハムシ科の跗節味覚感覚器の形態と寄主選択における役割	16:15
F116 ○平江 雅宏 ¹ ・柴 卓也 ¹ ・奥田 充 ¹ ・諏訪 順子 ² (中央農研 ¹ ・茨城農総七農研 ²) 「コシヒカリ近中四SBL1号」のイネ縞葉枯病およびRSV保毒率抑制効果	G116 ○長峯 啓佑 ¹ ・星崎 杉彦 ² ・粥川 琢巳 ³ ・石川 幸男 ² ・新谷 喜紀 ¹ (南九州大 ¹ ・東大院農 ² ・農研機構 ³) キボシカミキリの蛹化カスケード開始におけるインスリンシグナルの関与	H116 ○吉田 昭広 ¹ ・手嶋 伸 ² ・佐久間 正幸 ² ・坂巻 祥孝 ³ ・児玉 隆治 ¹ (基生研・構造多様性 ¹ ・京大院・農 ² ・鹿児島大・農 ³) ジャガイモキバガ後翅後縁に広がる細長い鱗粉の機能形態学	I116 ○山内 富士男・三本 菅 猛・菅野 英二(福島農総セ) キュウリ苗に対する高濃度炭酸ガス処理によるワタアブラムシ防除	J116 風間 春奈 ¹ ・○本田 洋 ² ・松山 茂 ³ ・木村 澄 ⁴ (京大農院 ¹ ・東農大生命科学 ² ・筑波大生命環境 ³ ・畜草研 ⁴) 蜂児食餌成分のミツバチヘギイタダニに対する忌避効果	16:30

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
16:45	A117 ○新井 朋徳・土 田 聡・望月 雅俊(農研機構・果茶研) カキにおけるフタモンマダラメイガの発生生態とフルベンジアミド水和剤による防除効果	B117 ○杖田 浩二 ¹ ・小枝 俊仁 ² ・杉原 鷹彦 ² (岐阜農技セ ¹ ・岐阜防除所 ²) カキサビダニによるカキの新品種「ねおスイート」の果実被害について	C117 望月 雅俊(農研機構果樹茶部門) カンキツ園での害虫管理へのキンモクセイ防風樹の活用	D117 ○田中 真史 ¹ ・加藤 巧 ² ・西野 浩史 ³ ・大門 高明 ¹ (京大院農・昆虫生理 ¹ ・北海道大 院生命 ² ・北海道大 電子研 ³) ワモンゴキブリの単為生殖のメカニズム	E117 田邊 真太郎 ¹ ・山岡 孝平 ¹ ・宮竹 貴久 ¹ ・粕谷 英一 ² (岡山大学 ¹ ・九州大・理 ²) ニホンアマガエルにおける給餌に対する慣れと記憶のメカニズム
17:00	A118 ○八尾 充睦・植松 繁・松田 絵里子・吉田 佳代(石川農林総研) 石川県における大豆「里のほほえみ」に対応した防除体系～防除体系の違いが病害虫の発生に及ぼす影響～	B118 ○里見 純・市川 大輔・光畑 雅宏(アリスドライブインズ(株)) 露地ナシのハダニ防除におけるミヤコカブリダニバック剤の利用技術の改善	C118 ○守屋 伸生・喜久 村 智子・上里 卓己(沖縄農研セ) マンゴー施設内におけるチャノキイロアザミウマ <i>Scirtothrips dorsalis</i> C系統とYT系統の発生消長及び施設内雑草への寄生性の比較	D118 ○高橋 一男 ¹ ・石森 元幸 ² ・岩田 洋佳 ² (岡大・環境生命 ¹ ・東大・農学生命 ²) HSP90がキイロショウジョウバエの交尾器形態の遺伝的ロバストネスに与える影響	E118 ○池川 雄亮 ^{1,2,3} ・日室 千尋 ^{1,2,3} (琉球産経 ¹ ・沖縄防技センター ² ・琉球大・農 ³) 分散能力の低い害虫の防除には空間的に均一な不妊虫放飼が必要である
17:15	A119 ○植松 繁・八尾 充睦・松田 絵里子・吉田 佳代(石川農林総研) 石川県における大豆「里のほほえみ」に対応した防除体系～防除体系の違いが収量および品質に及ぼす影響～	B119 ○川口 悦史 ¹ ・吉田 昂樹 ¹ ・荒川 昭弘 ¹ ・星 博綱 ² ・佐々木 正剛 ³ (福島農総セ果樹研 ¹ ・福島県北農林事務所 ² ・福島県植防協会 ³) 下草管理及び天敵保護防除体系下での土着カブリダニ類によるナシのハダニ類防除	C119 ○岩本 哲弥・本田 善之(山口農林総セ) ワサビクダアザミウマの生態について	D119 ○坂本 卓磨・岩淵 喜久男(東京農工大・応用昆虫学) キンウワバトビコバチの多胚期における20-Hydroxyecdysoneの効果	E119 ○柿元 一樹 ¹ ・太田 泉 ² ・巽 えり子 ³ ・山中 聡 ⁴ (鹿児島農総C ¹ ・農研機構・野菜花き ² ・住化テクノサービス(株) ³ ・アリス(株) ⁴) 施設野菜のアブラムシ類に対するバンカー法の再構築～施設ピーマンのアブラムシ類に対する天敵の複合的利用の有効性～

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F117 ○諏訪 順子 ¹ ・杉山 恵乃 ² ・西宮 智美 ¹ (茨城農総七農研 ¹ ・茨城農総七農大 ²) イネ縞葉枯病感受性品種および抵抗性品種栽培圃場におけるヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移	G117 渡辺 俊介 ¹ ・佐藤 令一 ¹ ・黄川田 隆洋 ^{2,3} ・○菊田 真吾 ¹ (農工大院BASE ¹ ・農研機構 ² ・東大院新領域 ³) ネムリユスリカ由来培養細胞は、乾燥から酵素を守るか?	H117 小島 渉(国立台湾師範大学) タイワンツノハナムグリのオスに見られる複数の武器形質の機能	I117 ○内田 一秀・村上 芳照・國友 義博・綿打 享子・功刀 幸博・望月 孝一(山梨果試) モモのウメシロカイガラムシに対する休眠期・生育期防除薬剤の殺虫効果	J117 柿崎 昌志(道総研中央農試) アカヒゲホソドリカスミカメと近縁種の虫体抽出物中の成分の比較	16:45
F118 ○松倉 啓一郎 ¹ ・渡邊 朋也 ² ・松村 正哉 ¹ (九冲農研 ¹ ・農業環境変動研 ²) イネ南方黒すじ萎縮ウイルスのウイルス流行モデル	G118 ○神村 学・伊藤 由果(農研機構 生物機能利用) リポフェクション法を使ったウスイロキンノメイガへの各種遺伝子の発現実験	H118 阿部 広明(東京農工大学農学部) ヒトのパーキンソン病のモデルとされるカイコの動きを再考した	I118 ○大上 恵 ¹ ・兼次 克也 ¹ ・播本 佳明 ¹ ・白石 郁雄 ¹ ・溝山 泰徳 ² ・山岸 勝哉 ³ (ダウ・ケミカル日本(株) ¹ ・日産化学工業(株) ² ・北興化学工業(株) ³) 新規殺虫剤イソクラスト™に関する研究(6)新たな害虫への効果		17:00
F119 ○佐野 正和・大木 健広・高篠 賢二・眞岡 哲夫(農研機構・北農研) 保毒アブラムシ1個体からのジャガイモYウイルス検出手法	G119 ○鎌田 百香・香取 成明・糸山 享(明治大院・農) 天敵昆虫サビマダラオオホソカタムシによるカイコへの寄生実験と発育への影響		I119 ○増井 伸一 ¹ ・山根 俊 ² ・土田 祐大 ¹ ・溝口 俊夫 ³ ・中山 浩典 ⁴ (静岡農林研果樹 ¹ ・静岡農林研 ² ・静岡スカイテック ³ ・ヤマハ発動機 ⁴) 産業用無人ヘリに搭載可能な静電散布装置の開発と評価		17:15

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
9:00	A201 ○安部 洋 ¹ ・櫻井 民人 ² ・大矢 武志 ³ ・松浦 昌平 ⁴ ・富高 保弘 ⁵ ・浅見 忠男 ⁶ ・三富 正明 ⁷ ・腰山 雅巳 ⁸ ・津田 新哉 ² ・小林 正智 ¹ (理研BRC ¹ ・中央農研 ² ・神奈川農技セ ³ ・広島総研農技セ ⁴ ・九沖農研 ⁵ ・東京大学 ⁶ ・Meiji Seikaファルマ ⁷ ・日本ゼオン ⁸) 植物防御によるアザミウマ行動制御と忌避剤の開発	B201 ○東田 景太・大朝 真喜子・森 光太郎・今井 修(石原産業中央研) 圃場環境におけるアカメガシワクダアザミウマへの薬剤影響評価試験—植物構造の隠れ家効果	C201 軸丸 祥大(広島総研農技C果樹) 環状剥皮部位に対するクビアカスカシバの加害予防方法の比較	D201 ○水野 尊文 ¹ ・萩原 康夫 ² ・秋野 順治 ¹ (京工織大 ¹ ・昭和大 ²) クロオオアリにシフトする任意的共生種ミヤマシジミの共生アリ適応性	E201 ○小澤 理香 ¹ ・小原 祥嗣 ^{2,3} ・塩尻 かおり ⁴ ・垣 渕 和正 ³ ・内田 徹 ³ ・佐野 孝太 ³ ・上船 雅義 ⁵ ・高林 純示 ¹ (京大生態研 ¹ ・豊橋市 ² ・四国総研 ³ ・龍谷大農 ⁴ ・曾田香料 ⁵ ・名城大農 ⁶) 蜜源と健全植物は天敵誘引成分の効果を増強する
9:15	A202 ○大矢 武志 ¹ ・安部 洋 ² ・櫻井 民人 ³ ・松浦 昌平 ⁴ ・浅見 忠男 ⁵ ・三富 正明 ⁶ ・腰山 雅巳 ⁷ (神奈川農技セ ¹ ・理研BRC ² ・中央農研 ³ ・広島総研農技セ ⁴ ・東京大学 ⁵ ・Meiji Seikaファルマ ⁶ ・日本ゼオン ⁷) ジャスモン酸類縁体を用いた行動制御によるミカンキイロアザミウマ防除	B202 ○溝部 信二・岡崎 仁(山口農林総セ) 太陽熱がアスパラガス施設の温度上昇およびハスモンヨトウ卵のふ化に及ぼす影響	C202 ○佐藤 信輔・草野 尚雄・鹿島 哲郎(茨城農総セ・園研) 合成ピレスロイド系殺虫剤散布が翌年のクイガイアブラムシの発生に及ぼす影響および春季の薬剤散布による多発生の抑制効果の検討(2)	D202 ○藤岡 春菜 ¹ ・阿部 真人 ^{2,3} ・嶋田 正和 ¹ ・岡田 泰和 ¹ (東大院総合文化広域 ¹ ・国立情報学研究所 ² ・JST ERATO ³) 自動追尾システムを用いたアリ類の活動リズムと社会的相互作用の解析	E202 ○仲島 義貴 ¹ ・井田 崇 ² ・Wilf Powell ³ ・Jhon Pickett ³ ・Michael Birkett ³ ・滝 久智 ⁴ ・高林 純示 ¹ (京大・生態研センター ¹ ・奈良女子大 ² ・Rothamsted Research ³ ・森林総研 ⁴) 天敵誘引成分を用いたアブラムシの生物的防除の強化
9:30	A203 ○櫻井 民人 ¹ ・安部 洋 ² ・大矢 武志 ³ ・松浦 昌平 ⁴ ・富高 保弘 ⁵ ・三富 正明 ⁶ ・腰山 雅巳 ⁷ ・津田 新哉 ¹ (中央農研 ¹ ・理研BRC ² ・神奈川農技セ ³ ・広島総研農技セ ⁴ ・九沖農研 ⁵ ・Meiji Seikaファルマ ⁶ ・日本ゼオン ⁷) トマトにおけるプロヒドロジャスモンのアザミウマ被害抑制効果	B203 ○片山 晴喜・土井 誠(静岡農技研) 静岡県産イチゴ品種に対する蒸熱処理技術を基幹としたIPMの構築	C203 ○高篠 賢二 ¹ ・豊島 真吾 ¹ ・眞岡 哲夫 ¹ ・上田 重文 ¹ ・大木 健広 ¹ ・三浦 一芸 ² ・小西 和彦 ³ ・秋元 信一 ⁴ (農研機構・北農研 ¹ ・農研機構・西日本農研 ² ・愛媛大 ³ ・北大 ⁴) 十勝地域のテンサイ圃場で採集されたビート西部萎黄ウイルス保毒アブラムシの種の特定	D203 ○辻 和希 ¹ ・佐々木 智基 ² ・土畑 重人 ³ (琉大・農 ¹ ・フマキラー ² ・京大・院農 ³) 中立マーカーで血縁度を推定すると予測を誤る?—アミアリの社会の癌の短期進化動態	E203 神川 諭(奈良農研セ) 奈良県の夏秋トマト栽培における保全的生物防除を核としたIPM体系の構築～動力噴霧機出動ゼロを目指して～
9:45	A204 徳丸 晋(京都府農技センター) 京都府におけるネギアザミウマ系統別の殺虫剤感受性	B204 ○畑中 猛・溝部 信二・友廣 大輔(山口農林総セ) バラのロックウール栽培におけるアザミウマ類の総合的病害虫防除(IPM)に係るアプローチ	C204 手柴 真弓(福岡農林試) フジコナカイガラムシ多発圃場における交信攪乱剤連年使用の効果	D204 ○水元 惟暁・淵側 太郎・松浦 健二(京大・農・昆虫生態) 砂時計型メカニズムを使ったシロアリの配偶者探索における時刻決定	E204 ○窪田 聖一・池内 温(愛媛農水研) 久万高原町の夏秋トマトにおけるオンシツコナジラミの帰化天敵を利用した防除

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F201 ○城田 安幸・城田 創・佐藤 悠平 (医果同源りんご機能研究所) 無農薬りんご園の害虫管理(13) 6年間合成農薬・合成肥料を使用せず、有機認証を取得したりんご園に於けるリンゴスガ <i>Yponomeuta malinellus</i> の大発生	G201 天久 朝恒・吉成 祐人・○丹羽 隆介 (筑波大・生命環境) 交尾刺激によって誘導されるショウジョウバエのメス生殖幹細胞増殖に果たす神経ペプチドの役割	H201 安井 行雄 (香川大学・農・昆虫) 雌の多雄交尾の進化メカニズムとしての両踏け (bet-hedging): 理論と検証	I201 ○山中 武彦 ¹ ・大澤 剛士 ¹ ・中谷 至伸 ¹ ・二橋 亮 ² ・中 秀司 ³ ・立田 晴記 ⁴ (農環研 ¹ ・産総研 ² ・鳥取大 ³ ・琉球大 ⁴) 一般参加型生物調査の効率化と成功へ導く提案: トンボ携帯調査ゲーム(続)	J201 ○田中 幸一・馬場 友希 (農業環境変動研究センター) 水田におけるクモ類種組成の地理的変異: 緯度、標高、気温の影響	9:00
F202 ○横堀 亜弥・加進 丈二・大江 高穂 (宮城古川農試) ダイズにおけるオオタバコガの発生消長	G202 緒方 法親 ((株)日本バイオデータ) カブトムシ血球の1細胞トランスクリプトーム解析	H202 ○向井 裕美 ¹ ・西野 浩史 ² ・Niels Skals ^{1,3} ・高梨 琢磨 ¹ (森林総研・森林昆虫 ¹ ・北大・電子研 ² ・Copenhagen Univ. ³) カメムシは左右脚部の振動受容器が生む強度差比較により振動源に定位する	I202 ○上田 紘司・藤本 泰文 (伊豆沼財団) 伊豆沼・内沼に隣接する池におけるオオセスジイトンボ成虫の生態および産卵環境	J202 ○塚本 敬之・近藤 博次・重久 真至・山本 雅則 (滋賀農技セ) 環境こだわり栽培が水田の生物多様性に与える効果: 2年間の調査結果	9:15
F203 ○山口 卓宏・嶽崎 研・坂元 真一郎・重井 郁宣・西村 恵一 (鹿児島農総七大島) サトウキビ圃場でのメイチュウ類による芯枯れ茎の分布様式	G203 ○松本 由記子 ¹ ・服部 誠 ² (農研機構・生物機能 ¹ ・元 農生研 ²) ツマグロヨコバイ唾腺タンパク NcSP75はその発育と生存に必須である	H203 ○宮崎 洋祐 ¹ ・田中 一裕 ² ・渡 康彦 ³ (大阪市大・院理 ¹ ・宮城学院女子大・一般教育 ² ・芦屋大・臨床教育 ³) タマネギバエ概日時計の自由継続周期に対する温度較差の影響	I203 ○降幡 駿介 ¹ ・笠井 敦 ^{1,2} ・日鷹 一雅 ³ ・池上 真木彦 ¹ ・大西 一志 ¹ ・五箇 公一 ¹ (国立環境研 ¹ ・静岡大・農 ² ・愛媛大・院農 ³) トンボ類に対する殺虫剤影響の野外実態	J203 ○河野 勝行・飯田 博之 (農研機構野菜花き研) キャベツ圃場における被覆作物マルチ大麦の同時栽培の位置の違いが地表徘徊性捕食性天敵の個体数とキャベツの収量に与える影響	9:30
F204 ○石崎 摩美・石島 力・平江 雅宏 (中央農研) 斑点米カメムシ発生予察用粘着トラップへのイチモンジセセリの捕獲消長とカメムシフェロモン剤の影響の有無	G204 ○本間 悠里 ¹ ・梶 浩平 ¹ ・篠田 徹郎 ² ・外川 徹 ¹ (日大・文理 ¹ ・農研機構・生物機能部門 ²) カイコガのアラタ体で高発現するPTEN-like phosphatase (Plip) の機能解析	H204 ○嶋田 正和・長瀬 泰子・笠田 実 (東大・総合文化・広域) 寄生蜂2種の生命表形質の可塑性と競争を取り入れた推移行列の解析	I204 村瀬 香 (名古屋市立大学大学院) 自然共生型農法で栽培された農作物の収量・食害率	J204 ○三代 浩二・岸本 英成・土田 聡・外山 晶敏 (農研機構果樹茶研) 数種落葉果樹類及び木本類における土着天敵類の黄色粘着トラップでの捕獲消長	9:45

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
10:00	A205 薬師寺 賢(岡山農研) ブドウ果粒果頂部を加害するネギアザミウマの防除時期の検討	B205 〇喜久村 智子 ¹ ・上里 卓己 ¹ ・宮城 徳道 ² ・守屋 伸生 ¹ (沖縄農研センター ¹ ・沖縄営農支援課 ²) 沖縄県における新たなマメ科作物の害虫 <i>Megalurothrips usitatus</i> (アザミウマ目:アザミウマ科)の発生状況と薬剤感受性	C205 〇塩尻 かおり ¹ ・小澤 理香 ² ・仲島 義貴 ² ・高林 純示 ² (龍谷大学・農 ¹ ・京都大学・生態研 ²) 雑草との植物間コミュニケーションがイネの収量と害虫抵抗性に及ぼす影響	D205 〇三木 健太郎・吉村 英翔・山田 佳廣(三重大・生物資源) キボシアシナガバチにおける産卵権保持機構	E205 〇松川 みずき ¹ ・田中 利治 ² (国際農研 ¹ ・名大サテライト ²) カンボジアの乾季稲作における作付体系と昆虫相
10:15	A206 〇林川 修二 ¹ ・上吹越 一成 ² ・二川 裕一 ² ・郡山 啓作 ³ (鹿児島農総セ ¹ ・南薩地域振興局 ² ・北薩地域振興局 ³) 鹿児島県のキク栽培で発生するアザミウマ2種に対する各種薬剤の殺虫効果	B206 井口 雅裕(和歌山農試) 施設密閉高温処理によるネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの防除	C206 〇笠井 敦 ^{1,2} ・佐藤 安志 ¹ (農研機構・果樹茶業 ¹ ・静岡大農・応用昆虫 ²) 茶の難防除害虫ナガチャコガネ成虫の発生消長と6種殺虫剤の急性接触毒性	D206 〇藪田 浩史・吉村 英翔・山田 佳廣(三重大院・生物資源) サイズが異なるセグロアシナガバチのコロニーにおける外役活動上の差異	E206 〇石島 カ・石崎 摩美・三浦 重典(中央農研) イチモンジセセリ多発水田におけるBT剤の効果
10:30	A207 〇関根 崇行・猪苗代 翔太・鈴木 香深・増田 俊雄(宮城農園研) リビングマルチ及び各種資材による春まきタマネギのネギアザミウマ抑制効果	B207 〇妙楽 崇・菊井 裕人・近藤 俊文(岐阜農技セ) 促成栽培イチゴ施設におけるヒラズハナアザミウマの侵入対策の検討	C207 〇西野 実 ¹ ・河野 勝行 ² (三重農研 ¹ ・農研機構野菜花き研 ²) カンキツヒメコバヤによる大豆の矮化症状は吸汁そのものが原因である	D207 〇西村 正和・小野 正人(玉川大・院・農) キイロスズメバチのワーカーによる非血縁コロニーへのドリフトイング	E207 〇一木 良子 ¹ ・中村 達 ¹ ・中原 雄一 ² ・中松 豊 ³ ・田端 純 ² ・田中 利治 ⁴ (国際農研 ¹ ・農研機構 ² ・皇學館大 ³ ・名大サテライト ⁴) 寄主の変態をめぐる寄生バチと寄生バエの対立(その2)
10:45	A208 〇村田 未果 ¹ ・針山 孝彦 ² ・山濱 由美 ² ・外山 美奈 ² ・太田 泉 ¹ (農研機構野花研 ¹ ・浜松医大 ²) ミナミキイロアザミウマに対する赤色光の制御機構に関する考察(第2報)	B208 〇柴尾 学・城塚 可奈子(大阪環農水研) 赤色光照射と光反射シートの併用による施設キュウリのミナミキイロアザミウマの密度抑制	C208 石栗 陽一(青森産技りんご研) ナシヒメシクイの卵期間と防除体系	D208 〇吉村 英翔・山田 佳廣(三重大院 生物資源) セグロアシナガバチにおける腹部脂質量の個体変異と季節変化:小さい個体は越冬が難しい	E208 〇神野 哲行・上田 昇平・吉安 裕・平井 規央(大阪府大院・環動昆) ヒメダラミズメイガの寄生蜂 <i>Microgaster</i> sp. の分布と産卵行動

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F205 ○小澤 朗人・内山 徹・大石 哲也(静岡茶研センター) ドローン(マルチローター)の空撮によるチャ害虫被害の実態把握	G205 内山 博允 ² ・関 健仁 ² ・田中 良明 ¹ (農研機構・生物機能 ¹ ・東京農大 ²) トビイロウンカを用いたRNA農薬開発に有用な標的遺伝子の探索	H205 ○東樹 宏和 ¹ ・馬場 友希 ² (京大・人環 ¹ ・農環研 ²) 次世代シーケンシングで食物網を探る:クモ・寄生蜂・土壌動物・植食性昆虫	I205 白石 昭彦(中央農研) 茨城県南部における水田の栽培形態と動物相の関係	J205 星崎 杉彦(東大農) カブトムシの幼虫は、体サイズに応じてその後の成長量を調整する	10:00
F206 ○成 耆鉉 ¹ ・姜 時友 ² (理研筑波 ¹ ・山形大 ²) 一生の自動記録装置-ショウジョウバエ個体別自動活動測定システムの開発	G206 ○櫻井 健志 ¹ ・田淵 理史 ¹ ・内野 恵郎 ² ・瀬筒 秀樹 ² ・神崎 亮平 ¹ (東大先端研 ¹ ・農研機構 ²) 遺伝子組換えカイコガを用いたフェロモン受容体遺伝子の発現制御領域の探索	H206 ○松尾 和典 ¹ ・轟 雄右 ² ・藤田 諭 ² ・遠藤 淳 ² ・沼田 英治 ² ・三田 敏治 ³ ・広瀬 義躬 ⁴ (九大院比文 ¹ ・京大・院理 ² ・九大院・農・昆虫 ³ ・九大 ⁴) ナガメ(カメムシ目:カメムシ科)の卵寄生蜂の発見	I206 ○足達 太郎 ¹ ・田中 草太 ² ・畠山 華歩 ¹ ・高橋 千太郎 ³ (東京農大 国際食料情報 ¹ ・京都大 院農 ² ・京都大 原子炉実験所 ³) 福島県に生息する節足動物における放射性セシウムの蓄積状況—原発事故後4年間の推移	J206 ○伊藤 広記・大澤 直哉(京大・農・森林生態) オオゴキブリ科昆虫の朽木選好性と社会構造	10:15
F207 池本 直矢 ¹ ・○中野 昭雄 ² ・豊島 真吾 ³ ・寺田 賢治 ¹ (徳島大学大学院 ¹ ・徳島農総技セ ² ・農研機構北海道農研 ³) 画像解析で試みた数種カブリダニ類の自動識別	G207 ○仲里 猛留 ¹ ・坊農 秀雅(DBCLS) 昆虫分野におけるNGSデータのさらなる利活用のために	H207 ○谷合 幹代子・新川 徹・前田 太郎(農研機構・生物機能利用) ヒメハナカメムシは外傷性受精を行うか?	I207 大林 隆司(小笠原農セ・都農総研) 小笠原固有陸生貝類と外来陸生貝類の防除薬剤への到達性の比較	J207 ○Aryal Sunil・Jung Chuleui (ANU) Supercooling point of Korean population of the potato tuber moth, <i>Phthorimaea operculella</i>	10:30
F208 田中 智貴 ¹ ・○多々良 明夫 ¹ ・上遠野 富士夫 ¹ ・鍵和田 聡 ¹ ・中平 知芳 ² ・姫野 和洋 ³ ・堀川 英則 ⁴ (法政大生命科学 ¹ ・高知農技セ ² ・大分農林水研 ³ ・愛知農総試 ⁴) シノサビダニ <i>Shevtchenkella</i> sp.の風による分散	G208 ○竹下 和貴 ^{1,2} ・松浦 優 ^{1,2} ・孟 憲英 ¹ ・三谷 恭雄 ¹ ・新里 尚也 ² ・菊池 義智 ^{1,3} (産総研・生物プロセス ^{1,3} ・琉大・熱生研 ² ・北大・院農 ³) ヒョウタンナガカメムシ類で見つかった環境獲得型細胞内共生	H208 長田 庸平(九大院・農・昆虫) キノコ類害虫を含む日本産 <i>Morphaga</i> 属(チョウ目ヒロズコガ科)各種の識別法	I208 ○石川 郁太郎・坂本 楓夏・岩佐 光啓(帯畜大) 牛用駆虫剤イベルメクチンとエブリノメクチンがゴホンダイコクコガネの生存、繁殖および摂食活動に及ぼす影響	J208 長 泰行(千葉大・院・応用昆虫) ミカンキイロアザミウマの蛹による対捕食者反応	10:45

3月29日(水)午前一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
11:00	A209 ○西濱 健太郎 ¹ ・山下 玉香 ² ・石倉 聡 ¹ ・星野 滋 ¹ (広島県農業技術センター ¹ ・広島県北部農業技術指導所 ²) ハスモンヨトウの被害を軽減する黄色LEDランプの省コスト設置方法の検討	B209 ○城塚 可奈子・柴尾 学・岡田 清嗣(大阪環農水研) 大阪府における施設ナス・キュウリのミナミキイロアザミウマの総合的管理体系	C209 ○小俣 良介・岩瀬 亮三郎・植竹 恒夫(埼玉農技研) 埼玉県のネギ・ニンジンの新害虫クロバネキノコバエ科の一種による被害と発生確認のための室内における寄主植物培養法	D209 光畑 雅宏(アリスタライフサイエンス(株)) 在来種クロマルハナバチによるパッションフルーツの受粉効果(本報)	E209 ○高務 淳・佐藤 大樹・島津 光明(森林総研) <i>Beauveria asiatica</i> の有性世代の発見:頻繁に遺伝的交流をしているの?
11:15	A210 ○吉原 大介・堀 雅敏(東北大院農) 青色光のトマトハモグリバエに対する殺虫効果と近縁種間に対する効果の違い	B210 ○上里 卓己 ¹ ・貴島 圭介 ² ・喜久村 智子 ¹ ・守屋 伸生 ¹ (沖縄農研セ ¹ ・沖縄八重山普及セ ²) 沖縄県におけるゴマを利用したタバコカスミカメの誘引時期の検証	C210 上杉 龍士(農研機構・中央農研) 埼玉県のネギ・ニンジンの新害虫クロバネキノコバエ科の一種における種特異的PCRによる識別法の開発	D210 ○原野 健一 ¹ ・久保 良平 ¹ ・小野 正人 ^{1,2} (玉川大・ミツバチ科学 ¹ ・玉川大・農 ²) コマルハナバチのオスによる配偶前巡回行動:代替繁殖戦略の可能性	E210 杉本 貴史・三橋 渡・宮本 和久(農研機構) 昆虫ボックスウイルス(EV)に見られるABCトランスポーター配列の発現解析
11:30			C211 ○岩瀬 亮三郎・小俣 良介・植竹 恒夫(埼玉農技研) 埼玉県のネギほ場における新害虫クロバネキノコバエ科の一種の発生消長と後作の春ニンジン被害防止のためのネット利用の検討		
11:45			C212 Ngin Chhay ² ・Suon Seng ³ ・○田中 利治 ¹ ・千葉 壮太郎 ¹ (名大ASCI ¹ ・GDA ² ・CDOR ³) カンボジア水田の殺虫剤散布区と無散布区、IPM処理区での天敵類と害虫個体群の変動と収量との関係		

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F209 ○土井 誠・中野 亮平・石川 隆輔・片山 晴喜 (静岡農林技研) イチゴ育苗圃と本圃におけるナミハダニの薬剤感受性の差	G209 ○細川 貴弘 ¹ ・深津 武馬 ² (九大・理 ¹ ・産総研 ²) カメムシの共生細菌になれなかった環境細菌	H209 ○Elsayed Ayman ¹ ・Tokuda Makoto ² (Kagoshima Univ. ¹ ・Saga Univ. ²) Life history of bud gallers associated with <i>Schoepfia jasminodora</i>	I209 ○池上 真木彦 ¹ ・岸 茂樹 ¹ ・大野 ゆかり ² ・永井 孝志 ³ ・河田 雅圭 ² ・五箇 公一 ¹ (国環研 ¹ ・東北大 ² ・農研機構 ³) 種分布モデルを使ったマルハナバチ分布に対するネオニコ農薬の影響評価	J209 ○Geng Shubao・Jung Chuleui (Andong Nat. Univ.) Temperature-dependent Development of <i>Phyllonorycter ringoniella</i> and Its Stage Emergence Models	11:00
F210 ○小出 哲哉 ¹ ・辻井 修 ¹ ・尾崎 真吾 ² ・松井 孝浩 ² ・河合 真人 ² ・長坂 省造 ³ ・落合 敏弘 ⁴ ・浅井 信吾 ⁵ ・中根 基貴 ⁶ ・加藤 晋朗 ¹ ・三宅 律幸 ¹ ・堤 公生 ¹ (愛知農総試 ¹ ・アイワスチール(株) ² ・西三河農水事務所 ³ ・豊田加茂農水事務所 ⁴ ・東三河農水事務所 ⁵ ・新城設楽農水事務所 ⁶) 野生獣を絡め獲るくくり罠補助具の開発	G210 ○棚橋 薫彦 ¹ ・川上 華子 ² ・朱 雪姣 ² ・蔡 正隆 ^{2,3} ・渡邊 花奈 ² ・深津 武馬 ¹ ・久保田 耕平 ² (産総研 ¹ ・東京大学 ² ・国立中興大学 ³) 同所的に生息するルリクワガタ属3種のマイクロハビタットにおける温度環境と共生酵母の環境適応	H210 ○土 田 聡・中村 有希・上地 奈美・三代 浩二 (農研機構・果樹茶) 国内未分布アザミウマ種の分子診断法開発のための遺伝子情報収集	I210 ○香取 郁夫・片山 庸平・西村 崇・村本 博次・池田 陽 (近畿大・農) マイマイツツハナバチをハウスイチゴの送粉昆虫として農業利用する試み	J210 中井 友也 ¹ ・○矢野 修一 ² (京大・農・生態情報 ¹ ・京大院・農・生態情報 ²) つる草はハダニに被害された植物を避けるか？	11:15
			I211 ○中村 尚 ¹ ・福澤 侃 ² ・中根 わかな ¹ ・小山 清隆 ² ・横山 岳 ¹ ・荻原 勲 ¹ ・仲里 猛留 ³ ・木下 薫 ² ・天竺 桂 弘子 ¹ (農工大院・農 ¹ ・明治薬大 ² ・DBCLS ³) ツマムラサキマダラ <i>Euploea mulciber</i> 幼虫フン由来抗癌成分の探索	J211 ○Adema Barry・Ohno Kazuro (Univ. Miyazaki) Are solidago patches an ecological trap for <i>Coccinella septempunctata bruckii</i> (Coleoptera: Coccinellidae)	11:30
					11:45

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
14:15	A213 ○原口 大 ¹ ・鶴井 香織 ² ・熊野 了州 ³ ・金城 邦夫 ¹ (沖縄農研セ ¹ ・琉球大戦略的研究セ ² ・帯畜大 ³) 不妊虫放飼法にX線照射は利用可能か～アリモドキゾウムシ不妊化の検討～	B213 ○中野 亮平 ¹ ・土井 誠 ¹ ・石川 隆輔 ¹ ・日本 典秀 ² ・神川 諭 ³ (静岡農林技研 ¹ ・農研機構中央農研 ² ・奈良農研セ ³) 数種の害虫特異的プライマーを用いたタバコカミカメ体内からの被食者DNA検出	C213 上野 清(山形農総研水田農試) 出穂期以降における殺虫剤散布後の畦畔除草による斑点米カメムシ類に対する防除効果	D213 ○山口 悠太 ¹ ・宇賀 神 篤 ^{1,2} ・小野 正人 ¹ (玉川・院・農 ¹ ・学振PD ²) 熱殺蜂球の高温環境がそれを形成したニホンミツバチに与える影響	E213 ○今野 浩太郎・松本 信弘・行弘 文子(農研機構 生物機能利用研究部門) 昆虫は痛がっているのか？—シユウ酸カルシウム針状結晶を含むサトイモ科植物の顕著な摂食阻害活性
14:30	A214 ○大石 毅 ¹ ・本間 淳 ^{1,2} ・松山 隆志 ¹ (沖縄防セ ¹ ・琉球大農 ²) 大量増殖中のアリモドキゾウムシの鞘翅の色は？	B214 ○本田 善之 ¹ ・岩本 哲弥(山口農林総セ) ホウレンソウケナガコナダニの抑制効果の高い藻類処理方法の探索	C214 ○岩田 大介・石本 万寿広(新潟農総研作物研) 高刈りによる水田畦畔の植生変化と2種カミカメの発生消長	D214 ○奥成 潤 ^{1,2} ・齋藤 佳奈 ^{1,2} ・本堂 海 ^{1,2} ・芳山 三喜雄 ² ・木村 澄 ^{2,1} (筑波大生命環境科学 ¹ ・農研機構畜産 ²) 人工飼養ミツバチにおけるカースト分化関連遺伝子の網羅的発現解析	E214 ○堀田 賢志・塚田 森生(三重大院 生物資源) アワダチソウゲンパイの高密度は選好性に影響するか
14:45	A215 ○嶽崎 研 ¹ ・山口 卓宏 ¹ ・吉松 孝宏 ² ・小堀 陽一 ³ ・大澤 剛士 ⁴ ・内藤 尚之 ² (鹿児島農総セ ¹ ・鹿児島県大島支庁 ² ・国際農研センター ³ ・農環研 ⁴ ・信越化学 ⁵) 餌資源競合種イモゾウムシの繁殖干渉によるアリモドキゾウムシの防除	B215 ○近森 ちさこ ¹ ・村田 未果 ² ・太田 泉 ² ・下元 満喜 ¹ (高知農技セ ¹ ・農研機構野花研 ²) タバコカミカメとミナミチビトビカミカメのギルド内捕食	C215 ○青木 由美 ¹ ・西島 裕恵 ² ・尾崎 秀宣 ¹ ・山口 琢也 ¹ (富山農総技セ ¹ ・富山県庁 ²) 斑点米被害が少ない水稻早生品種・系統の選抜	D215 ○Marko Stoic ^{1,2} ・Mikio Yoshiyama ² ・Kiyoshi Kimura ^{2,1} (University of Tsukuba ¹ ・NILGS ²) Sympatric and longitudinal comparison of midgut bacterial population in honey bee species	E215 ○Vina Rizkawati・Sakai Kazuma・Tsukada Morio(三重大・生物資源) Oviposition preference and nymphal performance in <i>Corythucha marmorata</i> on sweet potato
15:00	A216 高部 真典(山形農総研七園試) 山形県のセイヨウナシ・サクランにおけるカヅラマルカイガラムシの発生消長と防除		C216 ○松村 正哉・真田 幸代・藤井 智久・和田 博史(九州沖縄農研) トビイロウンカの圃場における増殖過程の品種間差異とその要因		E216 ○長谷川 毅・松本 由記子(農研機構) ツマグロヨコバイの口針鞘を構成する難溶性タンパク質成分の解析
15:15	A217 ○安達 鉄矢・下元 満喜(高知農技セ) 施設栽培ニラにおけるナメクジ類の発生実態の解明と防除法の検討		C217 柳生 義人(佐世保高専) 電気工学的手法を用いた腹足類防除法の開発		

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F213 岩堀 英晶(龍谷大・農) 根こぶ1個からの迅速・簡便なネコブセンチュウDNA抽出と種同定法	G213 ○藤原 亜希子 ¹ ・前田 太郎 ² ・重信 秀治 ² ・孟憲英 ³ ・鎌形 洋一 ³ ・土田 努 ⁴ (理研CSRS ¹ ・基生研生物機能 ² ・産総研生物 ³ ・富山大院理工 ⁴) タバコナジラミ侵入系統における内部複合共生系の多様性		I213 ○小原 慎司 ¹ ・手塚 俊行 ¹ ・木村 澄 ² (株式会社アグリ総研 ¹ ・農研機構畜産研究部 ²) セイヨウミツバチの施設栽培への新しい導入管理方法について		14:15
F214 ○高木 素紀 ¹ ・久恒 和雅 ¹ ・小田部 裕 ² ・鹿島 哲郎 ¹ (茨城農総セ園研 ¹ ・茨城県南農林土浦普及セ ²) 種ハスに寄生するレンコンネモグリセンチュウに対する数種薬剤による防除効果の検討	G214 ○安佛 尚志・森山 実・深津 武馬(産総研・生物プロセス) 共生細菌 <i>Nardonella</i> はクロカタゾウムシの遺伝子と協働しながら宿主のクチクラ形成や生存に寄与している		I214 ○木村 澄 ^{1,4} ・芳山 三喜雄 ¹ ・斐澤 圭二郎 ¹ ・奥成 潤 ^{1,4} ・Marko Stocic ^{1,4} ・小沼 明弘 ² ・大久保 悟 ² ・楠本 良延 ² ・加茂 綱嗣 ² ・徳岡 良則 ² ・小路 敦 ³ ・坂上 清一 ³ ・酒井 稔史 ⁵ ・仙名 和浩 ⁵ ・寺見 裕 ⁵ ・渡部 敢 ⁵ ・横井 智之 ⁴ (農研機構畜産 ¹ ・農研機構農環研 ² ・農研機構北農研 ³ ・筑波大生命環境科学 ⁴ ・道畜試 ⁵) 公共牧場に設置した蜂場における夏季のミツバチ群の消長解析		14:30
F215 ○串田 篤彦・奈良部 孝(農研機構北農研)ジャガイモシロシストセンチュウの迅速・高感度検出技術	G215 ○住岡 裕香 ¹ ・山崎 廉予 ¹ ・Ivan Galis ² ・北條 優 ² ・新屋 友規 ² ・有村 源一郎 ¹ (東京理科大・生物工 ¹ ・岡山大学資源植物科学研究所 ²) ハスモンヨトウ唾液内共生菌のシロイヌナズナ誘導防御における作用メカニズムの解明		I215 ○和智 仲是 ¹ ・中村 達 ² ・平康 博章 ¹ ・瀬山 智博 ¹ ・笠井 浩司 ¹ ・藤谷 泰裕 ¹ (大阪環農水研 ¹ ・国際農研 ²) 餌水分含量がアメリカミズアブ(双翅目:ミズアブ科)幼虫の成長に与える影響		14:45
F216 藤家 梓(元千葉農総研) ミャンマーにおけるコメ貯穀害虫の発生状況	G216 ○陰山 大輔 ¹ ・佐原 健 ² (農研機構 ¹ ・岩手大農 ²) 細胞内共生細菌 <i>Wolbachia</i> は核型ZOを持つキタキチョウにO卵しか作らせないように操作し、W染色体が担うはずのメス決定機構を肩代わりしている		I216 中村 達(国際農研) 餌や光がアメリカミズアブ成虫の産卵に与える影響		15:00
F217 森本 信生(農研機構畜産研究部門) 大型水盤トラップにおけるアブ類の捕獲消長—牧場に設置した車両消毒槽では雌ばかりか雄のアブも多数捕獲される—			I217 ○Ghosh Sampat・Jung Chuleui・Lee Somin(ANU) Nutritional composition of five insects used as food and feed in Korea		15:15